

海水魚が生きるのに海水は本場に必要か。岡山理科大学(岡山市)で青つ「理大のさかな」はこんな疑問から生まれた。山間にあるキャンパスでトラフグなどの養殖を可能にしたのは養殖のためにつくられた「自然界には存在しない水だ。JR岡山駅の構内に奇妙な水槽がある。色とりどりの淡水魚と海水魚が

食材最前線

岡山理科大学

「理大のさかな」

にエネルギーを消耗させる成分も含まれ、海水魚にとって理想の住環境ではないことも分かった。海水魚の生育に適した成分だけを選んで粉末にし、真水に加えたのが好適環境水だ。トラフグが1年以上に育つのに海水では1年半〜2年かかるが、好適環境水なら1年3カ月。養殖の密度も海の約4倍まで高められる。

「理大のさかな」の第1弾となったトラフグの初出荷は昨年7月。岡山の市場では1kg3500〜4千円強と海での養殖物より500円程度高い値が付き、年末に販売した鍋のセットは数百が短時間で完売した。

物珍しさだけが人気の理由ではない。病気が発生しやすい海での養殖では抗菌剤やワクチンの使用が避けられないが、室内の水槽では不要だ。海では投薬しても池入れした魚の半分程度が出荷までに死んでしまうが、無投薬の理大フグの生存率は7〜8割に達する。フグに続く魚も続々と送り出している。今年4月にヒラメ、6月にはシマアジを出荷した。クルマエビやウナギ、クエ、カニ、マグロなども出荷を視野に育成中だ。

だが岡山理大が目指すのは陸上養殖の「百貨店」ではない。山本准教授は

開発物語

一つの水槽の中を一緒に泳ぎ回っているのだ。ここで使われているのが岡山理大で開発された「好適環境水」。海水がなくとも海水魚を飼えるという不思議な水だ。開発のきっかけは7年前の学生の実験だ。海水が僅かに混じっただけの淡水で海水プラנקトンが育つことが分かった。海水は約60種類の成分を含むが、プラנקトンに必要なのはごく一部の成分だけ。工学部の山本俊政准教授は「海水魚も同じことなのではないか」との着想を得た。

「不思議な水」で山村を漁村に

「山間の自治体などに好適環境水やノウハウを提供し、地域振興に役立ててほしい。今はそのためデータ集めと認知度向上を図る段階」と話す。ヒラメなどの陸上養殖はこれまでもあったが、あくまで海水を引いて育てたもの。内陸に海水を運ぶには膨大なコストがかかるため、海岸近くの立地に限られていた。真水をベースにした好適環境水を循環させる手法なら砂漠でも養殖ができる。ゴミ焼却場の廃熱や温泉地の地熱を活用すれば、電気代の削減余地も大きい。キャッチフレーズは「山村を漁村に」(山本准教授)だ。

(吉野浩一郎)

日経MJ

7月8日

神戸本場の西側跡地

イオンモールに決定 15年9月オープン

活用事業者「食」をコンセプトに提案のコンペ

神戸市は4日、中央卸売市場本場の西側跡地の活用事業者にイオンモール(本社・千葉市、岡崎一社長)を選定したと発表した。市は市場との相乗効果などをコンペの条件に公募していたが、同社は、神戸市場直送の生鮮食料品が購入できる「地産マルシェ」や「グルメゾーン」など配置し、「食」を目玉に集客を図る。2015年9月のオープンを予定しており、市場との連携による地域の活性化が期待されている。

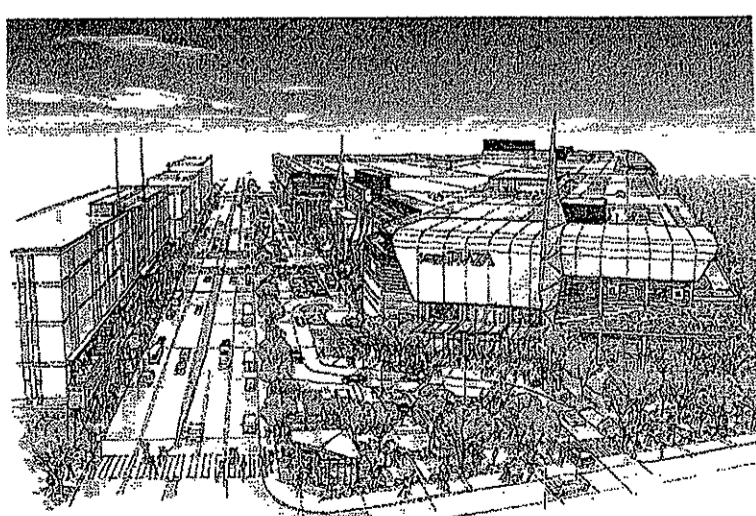
市場直送の「地産マルシェ」など目玉

4階建て、延床面積約9万2770平方メートル。核となる大型店に加え、物販、飲食などの専門店(グルメ、ファッショ、カルチャー)を配置し、1階に主要な施設を集中させ、高齢者にもやさしいつくりにする。

現在、同地の一部は観光拠点「平清盛・歴史館」(来年1月14日まで)に活用されているほか、汚染土壌の除去や兵庫津遺跡埋蔵文化財発掘調査が行われており、土地の引き渡しは、13年9月を予定している。

同市場は04年から再整備事業に着手し、西側施設を東側へ移転集約。09年5月に新施設の全面供用が開始した。市は卸売市場としての役割を終えた西側跡地約3・7秒を地域活性化に資するため、新たな活用を図ろうと、地域住民や市場関係者、学識経験者らでつくる「跡地利用検討委員会」が09年にまとめた報告書に基づきコンペを進めていた。

学識経験者や商工会議所、弁護士らで組織する活用事業者選定委員会、市場に隣接する立地特性を生かし、「食」を中心としたコンセプトが明確としてイオンモールを選定した。土地売却価格は45億円。提案された施設は、「Delicious Life Park」をコンセプトに、鉄骨造



神戸本場の関連棟(左)の向かいに建設予定のイオンモール完成予想図